

ガザの状況と 支援活動

高まる緊張

秋に入り、エルサレムではパレスチナ人によるイスラエル人襲撃事件やその報復事件が急増し、ヨルダン川西岸と東エルサレムでは緊迫が高まっています。国連によると9月15日～11月2日の間だけでも68人のパレスチナ人と9人のイスラエル人が死亡、7622人のパレスチナ人と94人のイスラエル人が負傷しています。

エルサレムのイスラム教の聖地への立ち入りを巡る事件を発端にした衝突は、パレスチナ人の移動制限、ユダヤ人入植地の拡大、失業と貧困など、占領という現実に対するパレスチナ人の青年たちのやり場のない怒りを背景にしています。希望の見えない中で、組織的な抵抗と言うよりも個人的な激情や衝動で若者たちが死に急ぐ状況は、パレスチナではあまりなかったことで、どのような方向に向かうのかとても心配です。

ガザでもイスラエルとの境界付近や検問所などに若者が押し寄せて投石などの抗議行動を起こし、それにイスラエル側が発砲するなど、2014年の戦争が終わって以降最も多い死傷者が出ています。ガザの入り口に当たるエレツ検問所付近での抗議行動により、検問所が一部破損したり閉鎖されるという事態もこれまでにないことです。

復興には17年かかる!

2014年のガザへの軍事侵攻の停戦から1年半近く経過しましたが破壊の爪痕は深く、瓦礫の撤去作業は少しずつ進んでいるものの、復興に向けた取り組みは本格化していません。いまだに1万軒以上の家屋が再建されないまま10万人が避難生活を送っています。長引く避難生活のため、賃貸料を払えない世帯は半壊の家に戻るか、鉄製コンテナの仮設住宅での避難生活を余儀なくされています。

封鎖によって建築資材が不足しています。あちこち



に瓦礫からブロックを再生する業者がいて、イスラエル国境沿いの立ち入り禁止地帯や不発弾が残された可能性がある地域まで、貧しい人たちが入って瓦礫を集め業者に売っています。国連によればこの復興スピードだと再建には17年間かかるそうです。雨と嵐の冬を前に、今年も避難生活のままで越冬する人たちがたくさんいます。当会では避難世帯を中心に毛布やヒーター、食糧といった物資を配るなど、越冬支援を今年も継続します。

戦争で負傷した子どもの訪問診療

目を見張る子どもたちの回復力

医師・理学療法士などの医療チームが戦争で負傷した250人の子どもたちへの訪問診療を続けています。特に目立つのは、爆弾の破片による骨折や神経系麻痺、臓器系の損傷、身体部分の切断、運動機能低下、尿失禁などですが、すでに障害があった人たちが戦争の影響



で適切な治療が受けられず状態を悪化させている例もあります。

専門家による定期的なアフターケアが受けられるようになって、著しい回復を見せるケースが、特に幼い子どもに多く出ています。車いすに乗っていた子が自力で歩行できるようになったり、ギプスを外して屈伸や片足立ちまでできるようになった子もいます。

サラーム103号で紹介した5歳のリマスちゃんもそうした回復を見せている一人です。毎週2回看護師と理学療法士が訪問して、頭部の損傷により麻痺をしている左半身の運動や電気刺激による筋力の回復、首や股関節の運動といった地道なりハビリを頑張ってきた結果、足首の可動範囲も大きく広がったためバランスは欠くものの歩行できるようになり、笑顔を見せるようになりました。髪の毛も生えてきて、外からは頭の傷も分からなくなりました。

リハビリ補助器具の配布

歩行が可能になったリマスちゃんの状態を医療チームが確認をして、革製の歩行補助靴を作ることになりました。頑丈な靴を使うことで足が保護され、どこかにぶつけることを恐れずに歩けるようになり、運動量を高めることで回復を促進します。足の採寸をしてオーダーメイドの革靴を提供しました。それぞれの子どものニーズに合わせて、車いす、エアーマットレス、松葉杖、呼吸器などの医療器具を用意しています。



リハビリは短期で中止してしまうと元の状態に戻ってしまうため、続けることが重要です。そのため、歩行練習や関節可動域を広げる運動、筋力の強化など、家庭でできることを保護者や家族にも指導しています。外で遊んだり幼稚園に行けるように本人も頑張っています。

子どもや若者の居場所と教育支援

バアレムビサン幼稚園、バッシール幼稚園、ナワール児童館、シルクワアマル児童館では、さまざまなレクリエーション活動や文化活動、スポーツなどのプログラムを実施中です。

国連やガザ政府の資金難の影響を受けて、9月の新学期開校が大幅に遅れました。学校教育現場は再び混乱し、授業の質も時間も足りていない現状があります。また避難先からの通学に抵抗があったり、日常生活に戻れないため、通学をしない子どもも増えています。そのため学習内容が難しくなる小学3～5年生を対象に補習クラスを開始しました。毎日約500人の子どもたちが国語や算数などの教科学習に取り組んでいます。

8月には若者対象のプログラムも実施。戦争被害の大

きかった地域を訪問し、被災状況の聞き取りや、清掃などのボランティア活動を実施しました。その経験を踏まえて、この冬は無職の若者たちへの支援を強化し、彼らが自尊心を取り戻し、社会へ参加できるようコミュニティでの活動などを一緒にしたいと計画しています。

